

【Web ニュース】

単独作業者に対する法的・道義的責任を果たすために

2026 年 1 月 22 日

Millie Marshall Loughran

Peoplesafe のプロダクト責任者である John Knowles 氏と、Globalstar の EMEA（欧州・中東・アフリカ）地域ゼネラルマネージャーである Mark O'Connell 氏が、携帯通信圏外エリアで働く単独作業者を守るために、なぜ衛星接続が必要なのかを解説しています。

1. なぜ今、英国および欧州で単独作業者の通信がこれほど重要な課題となっているのでしょうか？

英国および欧州全域において、組織はデューティ・オブ・ケア（安全配慮義務）とコンプライアンス重視の安全方針を、これまで以上に重視するようになっていきます。

公益事業の技術者、林業作業員、物流ドライバー、フィールド技術者、緊急対応要員に至るまで、単独作業者や遠隔地で働く作業者は現代経済に不可欠な存在です。しかし、彼らは従来の通信ネットワークの通信圏外エリアで業務に従事することも少なくありません。

規制当局および雇用者の双方が、信頼性の高いリアルタイム通信は「選択肢」ではなく、法的義務と道義的責任の双方を果たすために不可欠であるという認識を強めています。

英国では、労働安全衛生庁（HSE）が、直接的な監督を受けずに働く従業員を保護するための明確な期待水準を示しています。

欧州全体でも、ISO 45001 や各国の労働者安全指令といった同様の枠組みが同じ基準を強調しています。すなわち、雇用者は継続的な連絡手段と支援へのアクセスを確保しなければならない、ということです。

また、この 5 年間の社会的変化を受けて、この議論はさらに進化しています。

ハイブリッドな業務形態、コスト増による予算圧迫、人手不足、現場業務の機動性向上などにより、単独作業はより一般的になっています。

こうした単独作業の増加に加え、英国の組織の 64% が、過去 3 年間に単独作業者に関わる事故を経験しているという事実もあります。

常時の可視性と即応能力に対する期待は、かつてないほど高まっています。

2. 単独作業者の安全を確保するうえで、通信カバレッジの圏外に対処することがなぜ重要なのでしょうか？

どれほど高度なモバイルネットワークであっても、カバーできる範囲には限界があります。

農村部や遠隔地、洋上環境、エネルギー施設、林業現場、インフラ建設現場などは、しばしば GSM の通信圏外に位置しています。

作業者がその「見えない境界線」を越えた瞬間、通信、警報の発信、位置特定的能力が一気に失われる可能性があります。

リスクアセスメントで通信カバレッジの圏外エリアが特定された場合、そのリスクは記録され、単独作業者の安全確保と、法令違反や潜在的な法的責任から組織を守るために、必ずリスク低減策が講じられる必要があります。

負傷、車両故障、医療上の緊急事態など、苦境にある単独作業者にとって、その通信圏外は迅速な救助と対応の遅れとの分かれ目になり得ます。

単独作業そのものが本質的に危険というわけではありません — 事故発生時に確実に助けを呼び、支援を受けられない場合に、そのリスクが大きく増大するのです。

このため、多くの組織が携帯通信のみに依存するシステムを見直し始めています。

真に強靱な安全対策ソリューションは、作業場所を問わず常に接続性を維持し、こうした通信の圏外をシームレスに埋める必要があります。

安全戦略に衛星通信を組み込むことで、雇用者は通信の死角を排除し、最も遠隔な地域であっても、緊急アラートや GPS 位置情報が即座に対応チームへ届くことを保証できます。

3. 衛星通信は以前、ニッチで高価と考えられていました。なぜ今、労働者の安全用途として現実的になったのでしょうか？

その認識は事実でした。10 年前までは、衛星技術は専門的で高価なものと捉えられ、防衛や海事分野などに限られた用途と考えられていました。

しかし現在では、いくつかの要因により状況は大きく変わっています。

第一に、Globalstar のような低軌道（LEO）衛星コンステレーションの登場により、遅延が大幅に低減され、信頼性が向上し、コンパクトかつ低コストのデバイスが可能になりました。

過去 10 年間に行われたインフラ投資により、グローバルな衛星ネットワークは、はるかに効率的で利用しやすいものになっています。

第二に、ハードウェアの革新によって、コストと複雑性の両方が低減されました。

現代の衛星メッセンジャーや追跡デバイスは、小型で堅牢、操作も簡単で、専門的な訓練や大型機器を必要としません。

第三に、既存の安全管理プラットフォームとの統合性が向上しました。

現在では、衛星通信は GSM ベースのデバイスと同じ監視ダッシュボードや警報システムの中で利用できます。

つまり、グローバルな通信範囲と運用のシンプルさを両立でき、どちらかを犠牲にする必要はなくなったのです。

これらすべてにより、衛星通信はもはやニッチなバックアップ手段ではなく、労働者安全における主流の要素となりつつあります。

この技術は現在、林業、農業、石油・ガスなど、幅広い分野で利用されています。

4. GSM 専用デバイスと比べて、SPOT ハンディ端末の特長は何でしょうか？

SPOT デバイスは、Globalstar の実績ある衛星ネットワークと、シンプルおよび信頼性を兼ね備えています。

携帯通信圏外に出ると機能しなくなる GSM 専用ソリューションとは異なり、SPOT 端末は、ほぼあらゆる場所で接続性を維持します。

ハンディ端末は軽量でコスト効率が高く、実際の現場環境を想定して設計されています。

ワンボタン操作で、作業者は GPS 位置情報の共有、安否確認メッセージの送信、緊急アラートの発信が可能です。

デバイスは自動的に Globalstar の衛星経由で位置情報を送信するため、携帯電波がない圏外の環境でも、対応者は正確な救援場所を把握できます。

さらに、SPOT は Peoplesafe 社のような安全管理システムと容易に統合でき、複数地域に分散した多様なチームを管理する雇用者に対し、シームレスな可視性を提供します。

SPOT を携行する従業員は、携帯通信が使えない状況でも助けを呼べるという安心感と心の余裕を得られます。

この「カバレッジ」「信頼性」「シンプル」の組み合わせこそが、SPOT を独自の存在にしています。

重要なのは、この技術が英国および欧州全体で数万人規模のアクティブユーザーに利用され、数多くの救助事例や事故対応実績によって、長年にわたり有効性が証明されている点です。

人命に関わる場面において、「確実に機能する」という信頼は不可欠であり、SPOT はその信頼を獲得しています。

5. 適切な技術を選定する際に、組織が留意すべき点は何でしょうか？

重要なのは、技術からではなく、リスクと通信のカバレッジから検討を始めることです。

すべての組織は、自社の従業員が実際にどこで働いているのか、どのような危険にさらされているのか、どれほど迅速に支援が必要かを把握する必要があります。

その評価結果が、通信ソリューションの選択を導くべきです。

そのうえで、雇用者は信頼性、相互運用性、使いやすさを重視すべきです。

技術は、作業者が実際に、かつ継続的に使ってこそ、安全性を向上させます。

デバイスは直感的で堅牢であること、そして GSM と衛星の両方の入力をシームレスに処理できる監視プラットフォームによって支えられていることが求められます。

拡張性も重要な要素です。

一地域で 100 人の作業者に対応できるシステムは、複雑さを増すことなく、複数国にまたがる数千人規模へと拡張できなければなりません。

最後に、実績のあるネットワーク、長期的な安定性、高水準の認証を備えたパートナーを選ぶことが重要です。

衛星による安全対策は、単なるハードウェアの問題ではありません。地上局、サポートインフラ、そしてすべてのアラートとメッセージが確実かつ適切に処理されることを保証する運用ノウハウを含む「エコシステム」全体が重要なのです。

Globalstar では、数十年にわたる運用実績に裏打ちされた堅牢でグローバルに利用可能な衛星ネットワークを構築してきました。さらに Peoplesafe 社のような信頼できるパートナーと連携し、「人が働くあらゆる場所で通信を可能にする」という使命を推進しています。

本記事は、Security Journal UK 1 月号に初掲載されました。

原文）：<https://securityjournaluk.com/meeting-legal-responsibilities-lone-workers/>